

**ALCE例会 日本語教師の専門性を考える**

# **専門性の三位一体モデル**

**2021年11月13日  
館岡洋子**

**個別的・動態的専門性観**

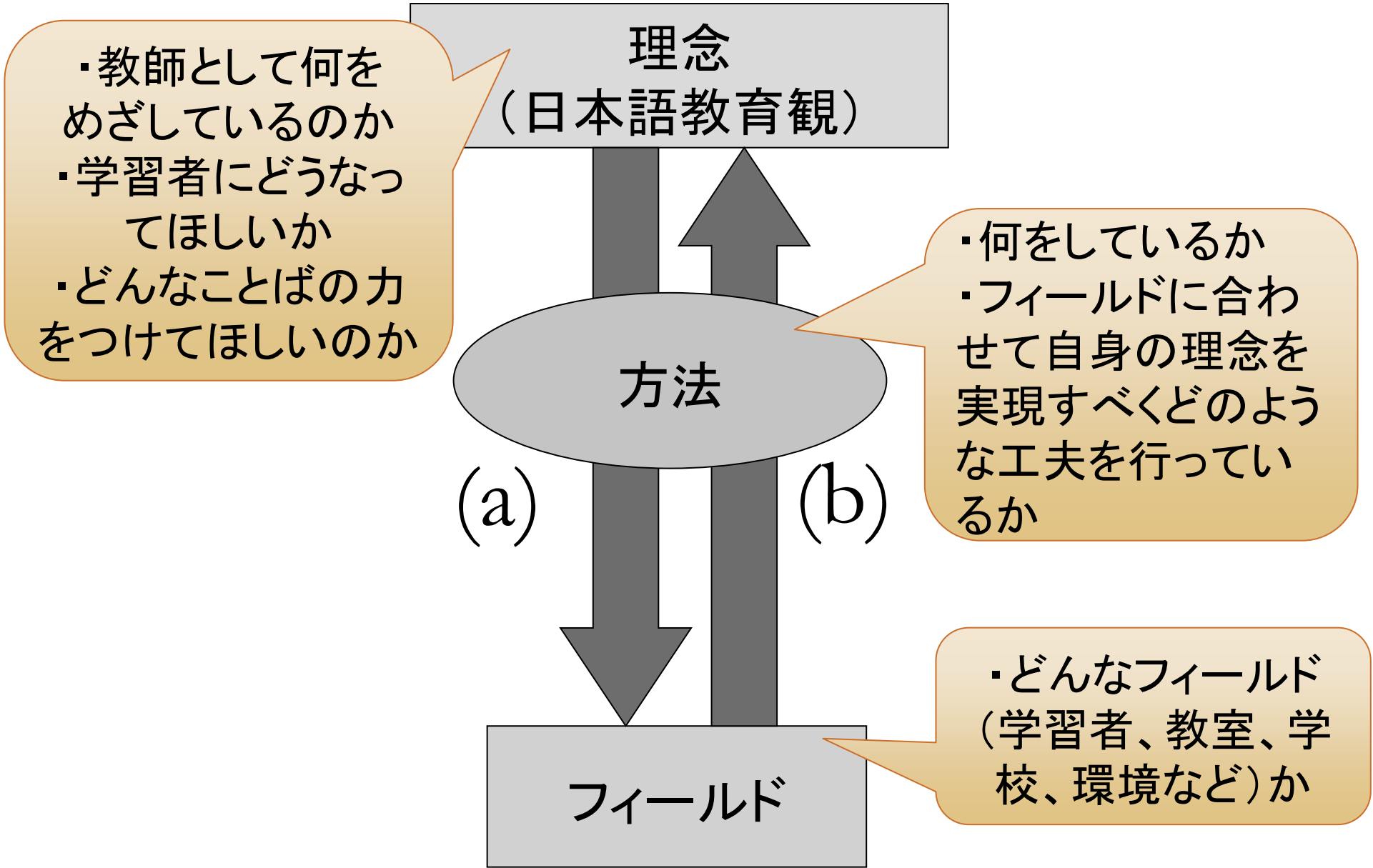
**日本語教師としての「存在論的接近」**  
(佐藤1997)

そもそも我々は  
主体性とか自律性を  
おざなりにしてきたのでは？

**日本語教師の専門性とは？**

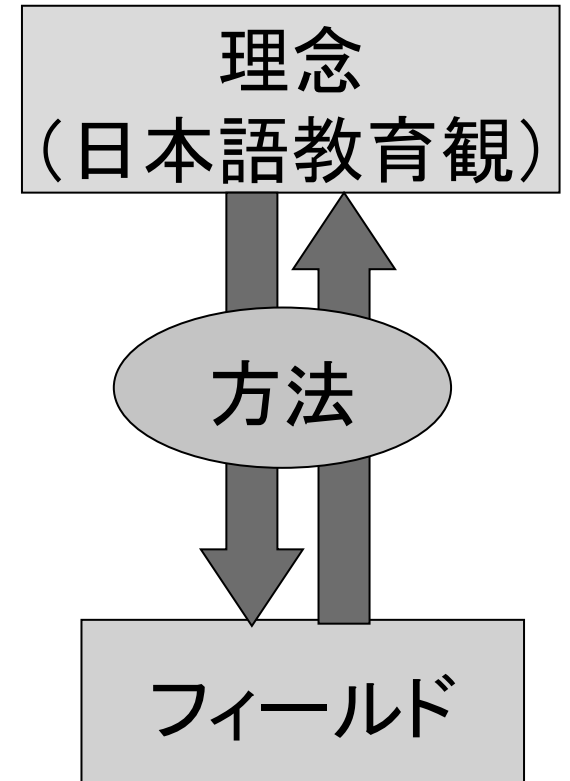
## 「日本語教師の専門性」とは：

どんな日本語教育を実現するのかといった自身の**理念（日本語教育観）**とどんな特徴をもったフィールド（ことばの教育現場）なのかといった**フィールドの固有性**との間で**最適な方法**を編成し実現できること



# 「専門性の三位一体モデル」とは：

理念と方法とフィールドの三者を**連動した一貫性のある動的なもの**としてとらえるべきだとの主張から、右の図を「**専門性の三位一体モデル**」と呼ぶ。



# 三位一体モデルが出てきた背景(1)

- 日本語教師の専門性を**個別的で動的なプロセス**として捉える  
→ 資質・能力のリストは「参照枠」として捉える
- 「存在論的接近」(佐藤1997)  
→ 自身が日本語教師であることはどういうことなのか  
日本語教師としての**存在の意味**を内から問う

# 三位一体モデルが出てきた背景(2)

## 私の問題意識から

①現職者研修や養成課程において何を学ぶのか

②能力基準のリスト化による強みとできないこと

強み:分野ごとに何を身につければよいか分かる

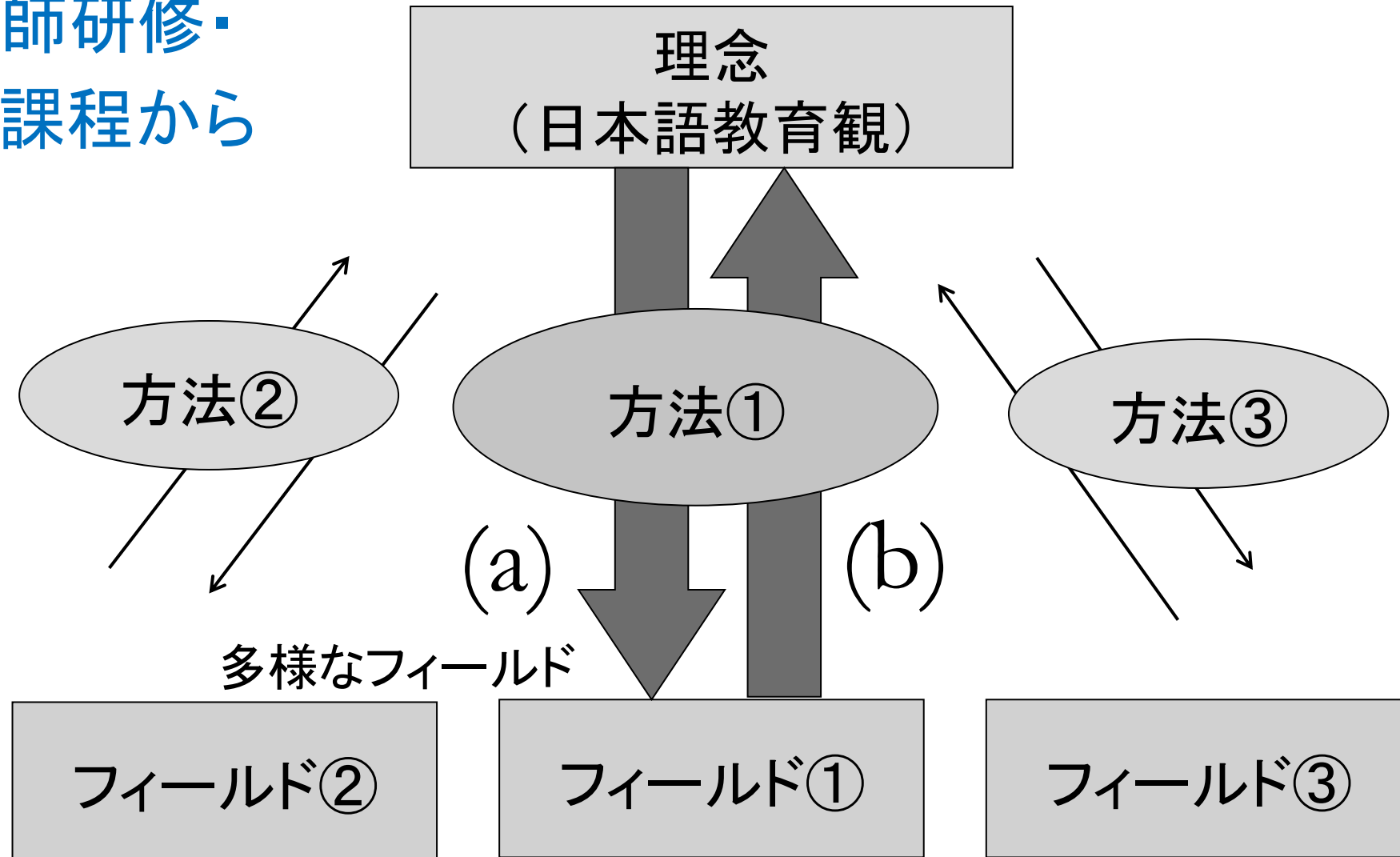
弱み?:活動分野が多様化するの中で何枚もの表が必要

ひとりの日本語教師の専門性の発達が不可視

③フィールドと方法との結合重視

○のフィールドには×の方法といった堅固な結合は、それを支えているはずの日本語教育観を見えなくしてしまう

現職者教師研修・  
教師養成課程から

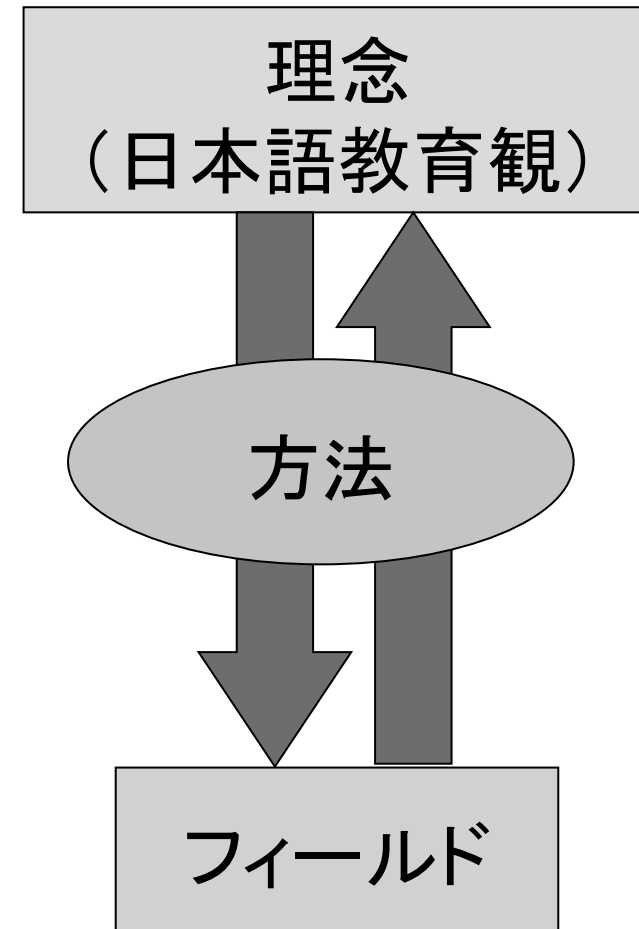


「専門性の三位一体モデル」



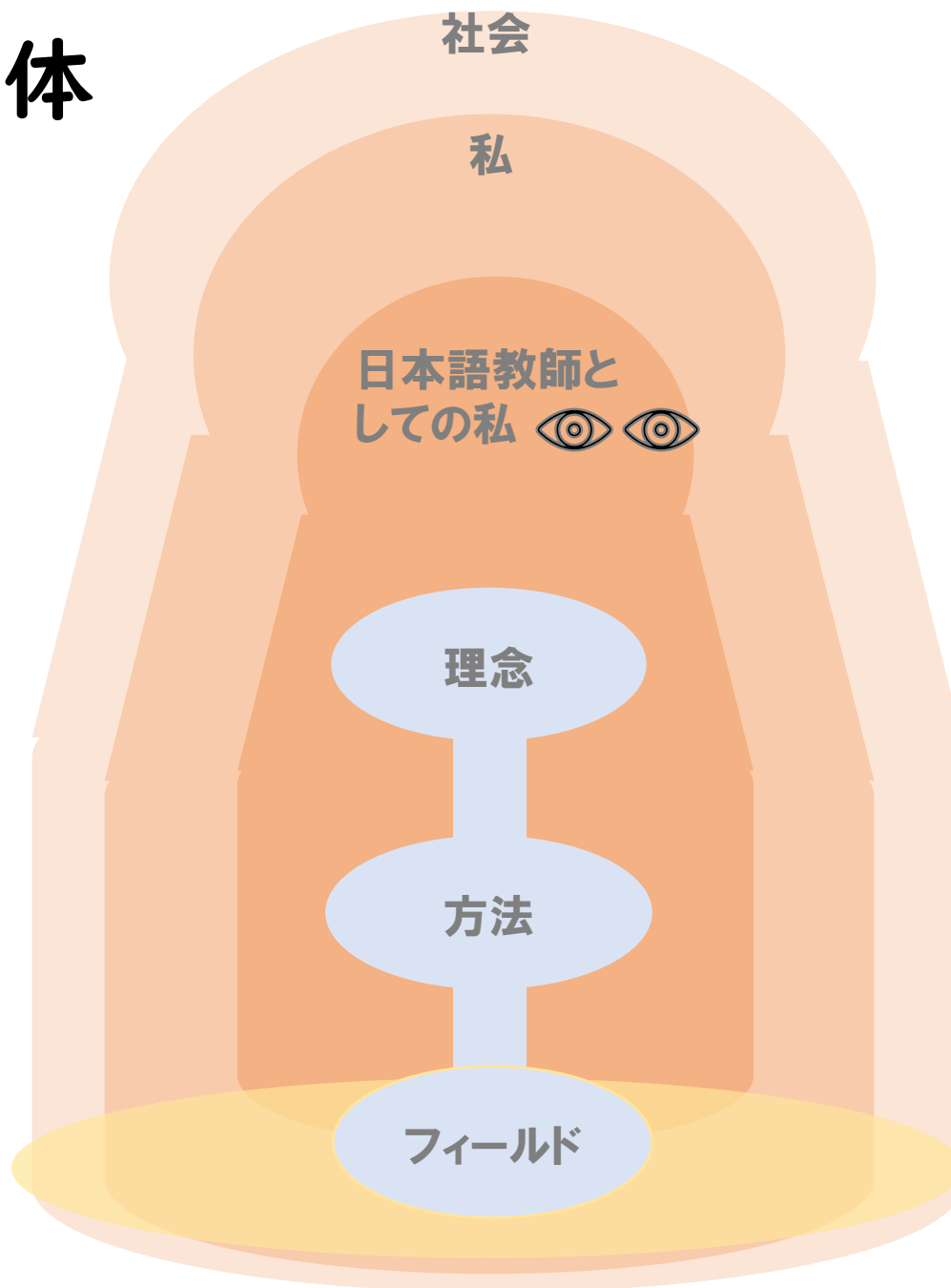
# 「専門性の三位一体モデル」の特徴：

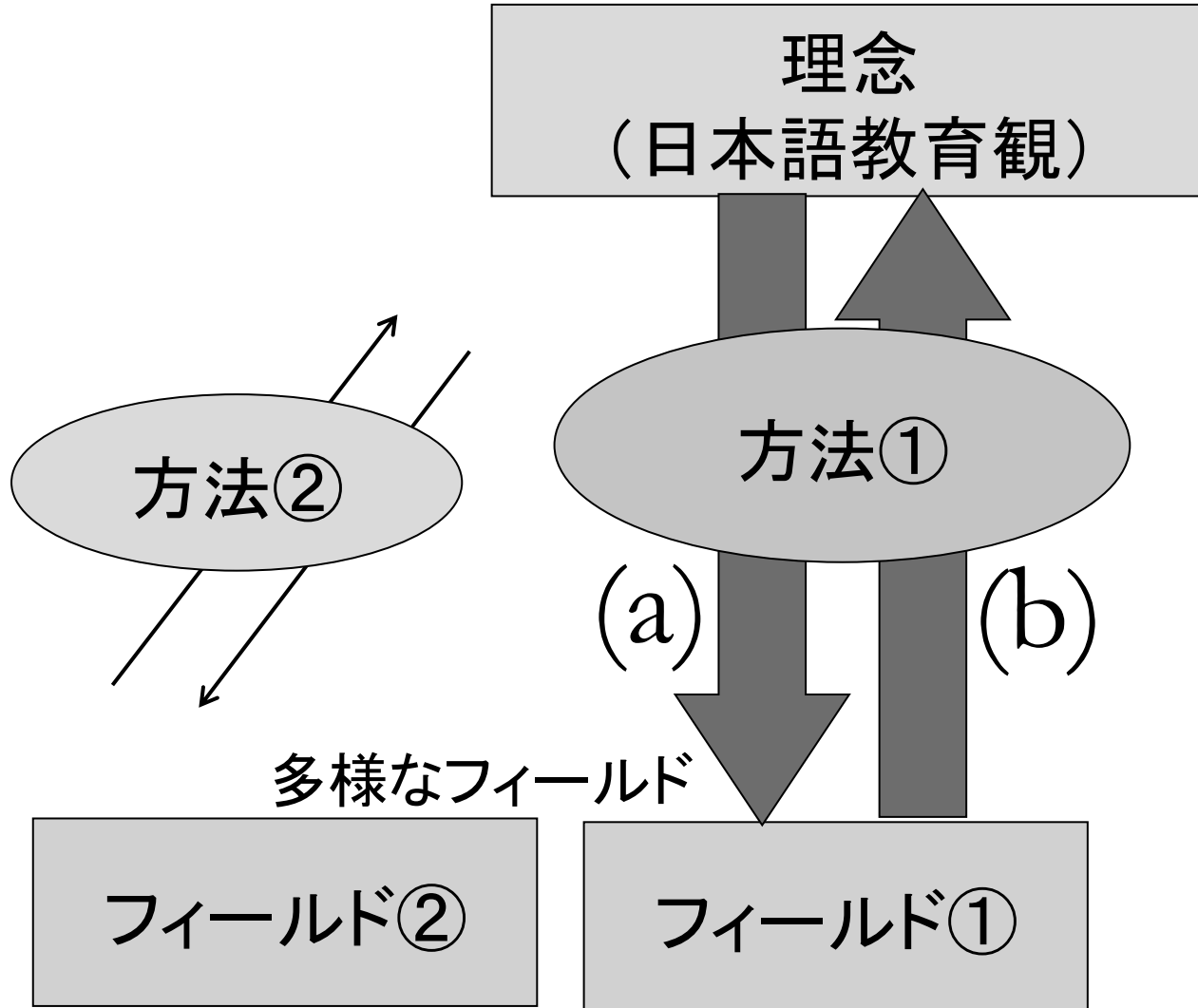
- ① 動的モデル：三者の一貫性
- ② 理念が重要



# 「専門性の三位一体モデル」の特徴:

## ③社会に埋め込まれた三位一体





他者の方法がそのまま使えるわけではない

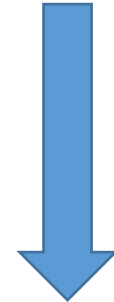
フィールド(分野)ごとに決まった方法があるわけではない

省察:

- ① 理念を明確にすること
- ② 理念+方法+フィールドの一貫性を見る目をもつこと
- ③ 社会におけるありようを見ること

ひとりで省察をするのは難しい

省察を促すための場が必要



省察を対話的に構成する場としての  
ワークショップ

「三位一体ワークショップ」:

「専門性の三位一体モデル」をツールとし、  
省察を促すための場

各地で実施中！  
来週も  
やります！

# 「三位一体ワークショップ」の意義

- ① 実践の言語化:
- ② 理念・方法・フィールドの可視化:
- ③ 日本語教師同士の相互理解:

## あらためて 日本語教師の専門性とは？

〇〇に対して上手に日本語を教えることができること？  
学ばせる

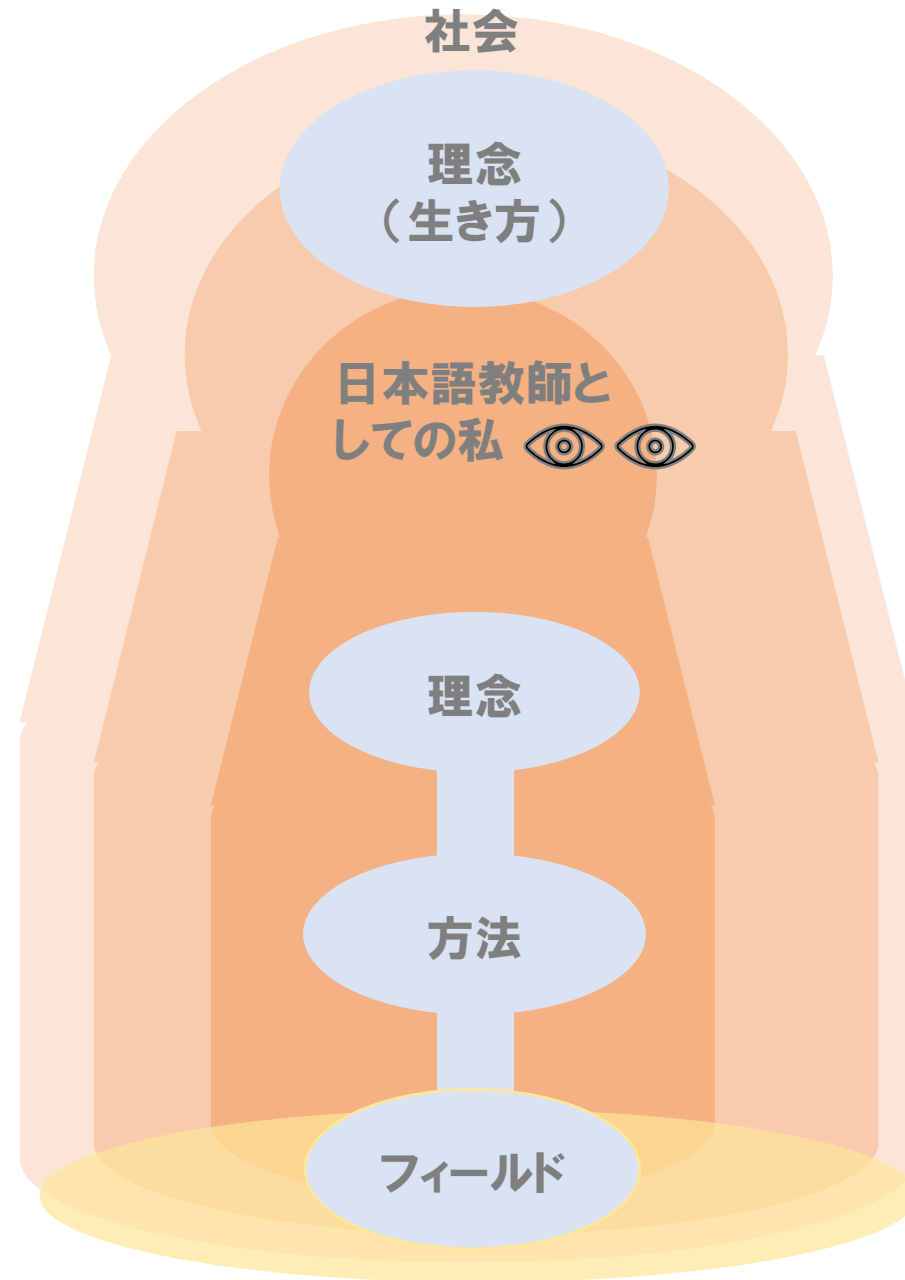
(例) 初級の学生に「て形」の導入をうまく行うことができる

(例) 児童生徒等の年齢・能力・文化的背景に応じた指導を行うことができる。

(例) ビジネスパースンにふさわしいやりとりを身につけさせることができる。

「日本語教師  
の専門性」:

理念とフィールド  
との間で  
最適な方法を  
編成し実現で  
きることに



## 特徴

- ① 動的モデル:  
三者の一貫性
- ② 理念が重要
- ③ 社会に埋め込まれた三位一体

# キャリアとしての日本語教師

- 日本語教師の専門性≠フィールドで「対応」できる「スキル」  
日本語教師としての「自分のありよう、ありかた」の問題
- キャリアとしての日本語教師であり、自身のアイデンティティを表現するものとしての日本語教師
- 継続的な省察のプロセス
- 働くことにまつわる生き方そのもの



## あらためて 日本語教師の専門性とは？

自分自身の内側から

「自分は何をめざしているのか」

「なぜ自分は日本語教師なのか」

「日本語教師の実践を通してどう社会と関わるのか」

省察を続け、

三者（理念、方法、フィールド）の一貫性をもちながら

実践を変えていくこと

そのときcan-doリストは参照枠として参考になる